

平成27年度 学校評価総括評価表

徳島県立徳島視覚支援学校

(1) 重点課題

視覚支援学校と聴覚支援学校が、「つながる」を合い言葉として連携・協働することにより、「幼児・児童生徒の夢と希望につながる保育・教育」を推進する。

- ① 学びにつながる
視覚支援学校と聴覚支援学校で学ぶ幼児・児童生徒が、互いに認め合い、ともに高め合う保育・教育を推進することにより、豊かな心を育む。
- ② 未来につながる
幼稚園から小学部、中学部、高等部、高等部専攻科における、専門性の高い一貫した保育・教育により、社会に主体的に参加し、自立をめざす人を育てる。
- ③ 地域とつながる
特別支援教育センターとして、視覚障がい等のある乳幼児から児童生徒に対する専門的な支援を全県展開するとともに、障がいのある方の交流拠点として、生涯をととした活動を支援する。また、防災避難施設として地域の方々の安全を守る。
- ④ 心がつながる
思いやりと支え合いの心に満ちた人間性豊かな社会を築くため、学校と保護者、地域、関係機関・団体等が連携し、視覚障がいに関する理解の推進に努める。

(2) 重点目標

- ① 視覚障がい教育に関する研修と公開授業、OJTによる授業力の向上等により、教職員の専門性を向上します。
- ② 点字教材と蝕察教材の充実を図ることにより、一人一人の見え方に対応した教育を推進します。
- ③ 支援機器等教材の活用に関する研究をとおして指導方法の充実を図ります。
- ④ 特別支援教育センターとしての機能を十分に発揮するため、乳幼児教育相談や通級指導教室を設置する等、視覚障がい等のある乳幼児から児童生徒に対する専門的な支援を全県展開します。
- ⑤ 幼児・児童生徒一人一人の人権を最大限に尊重するとともに、全教職員がいじめのない学校づくりに努めます。□
- ⑥ 幼児・児童生徒の発達段階をふまえたキャリア教育の推進を図ります。
- ⑦ 視覚支援学校と聴覚支援学校の幼児・児童生徒および教職員が、安心・安全な学校生活を送るための環境設定やルールづくりを推進します。
- ⑧ 聴覚支援学校との共同学習や行事への参加等により、ともに学ぶ教育の構築に向けた取り組みを推進します。
- ⑨ 防災避難施設として、地域の人々と連携した防災訓練等を行います。
- ⑩ 生涯学習の拠点として、視覚障がいのある人の活動を支援します。
- ⑪ 奉仕活動や環境・エネルギー活動、啓発活動をとおして、地域とのつながりを深めるとともに、視覚障がいに対する理解の推進を図ります。

重点課題	①学びがつながる					
	視覚支援学校と聴覚支援学校で学ぶ幼児・児童生徒が、互いに認め合い、ともに高め合う保育・教育を推進することにより、豊かな心を育む。					
重点目標	⑦視覚支援学校と聴覚支援学校の幼児・児童生徒および教職員が、安心・安全な学校生活を送るための環境設定やルールづくりを推進します。					
具体的な活動計画	評価指標	中間評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
		評価指標による達成度及び活動計画の実施状況	総合評価(評定)	学校関係者の意見		
寄宿舎	<ul style="list-style-type: none"> ・学級担任、歩行訓練士と連携して、舎内外を安全に歩行できるように舎生の実態に応じた歩行訓練を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・舎生の実態を把握するため、学級担任、歩行訓練士と、年間5回以上情報交換をする。 ・歩行訓練士に依頼し、年間3回以上の歩行訓練を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・舎生5名それぞれの学級担任と寄宿舎担任が、学校での様子や寄宿舎での生活の状況や気になることについて、適宜情報交換を行い対応策を考えている。今後は、学級と連携し懇談や家庭訪問を実施する予定である。 ・舎生の1名は1学期に2回、歩行訓練士による歩行訓練を行った。 ・舎生の実態を把握するために、夏季休業中に指導員を対象にした研修を予定している。 			
教務課	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度の授業計画として、年度末に聴覚支援学校と共有教室の使用について話し合いの場を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・両校話し合いまでに、各学部で2回以上検討会を持ち、必要な時間数や希望曜日等について意見をまとめておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、各学部で次年度の教育課程についての検討をすすめているところである。教育課程が決定後、使用予定等について意見をまとめる作業に取り組む予定である。授業ではないが、部活動の日(本校は水曜日、聴覚支援は水曜日以外)が、会議等の都合で変更になったり、追加で練習日を設定する場合に活動場所(特に卓球)がバッティングしてしまうことがあった。両校とも大会前ということで、練習時間の確保をしたいところではあったが、担当部署、顧問同士の連携が必要であることがわかった。 			

重点課題	①学びがつながる				
	視覚支援学校と聴覚支援学校で学ぶ幼児・児童生徒が、互いに認め合い、ともに高め合う保育・教育を推進することにより、豊かな心を育む。				
重点目標	⑧聴覚支援学校との共同学習や行事への参加等により、ともに学ぶ教育の構築に向けた取り組みを推進します。				
具体的な活動計画	評価指標	中間評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
		評価指標による達成度及び活動計画の実施状況	総合評価(評定)	学校関係者の意見	
幼稚園	・聴覚支援学校の幼稚部の幼児とかかわり合う保育活動を実施する。	・自由遊びでの自然なかかわりを含め、季節の行事や日々の保育活動等の意図的なかかわりを年間8回以上実施する。 ・両校に共通する大きな季節行事等は、事前に取り組み方を情報交換し、連携をする。	・1学期にさつまいもの苗と一緒に植えたり、七夕の笹を持ってきてもらったりして、5回程度かかわり合う活動を実施した。 ・5月に1年間の行事や保育のおおまかな情報交換を行い、6月には七夕やプール等の取り組み方を情報交換した。		
	・互いの保育のねらいを知り、聴覚支援学校の保育の参観をする。	・両校の教員が、幼児や保育についての話し合いを年間1回以上行う。 ・幼稚部教員が、聴覚支援学校の保育を年間3回以上参観する。	・全体で2学期以降に話し合いをもつ予定である。 ・6月に幼稚部教員がそれぞれ1回ずつ聴覚支援学校の保育を参観した。2学期以降にも参観を計画している。		
小学部	・聴覚支援学校小学部との親交や相互理解を深めるため、交流及び共同学習を実施する。	・年間3回以上の学年交流や共同学習、聴覚支援学校の行事への参加等を行う。 ・交流の場面では、それぞれの児童がそれぞれの方法で、聴覚支援学校の児童とコミュニケーションができる。	・学年交流を2回実施できた。交流では、友だちの名前を呼び、呼ばれた友だちが返事をするのを聞いたり、自分の名前を呼んでもらい、返事したりするなど、児童だけでコミュニケーションをとることができた。 ・2学期には2回の学年交流と聴覚支援学校の文化祭への参加を計画している。		

中学部	<ul style="list-style-type: none"> ・聴覚支援学校中学部の生徒との学習における交流を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科での交流及び共同学習や、栽培及び収穫活動等による交流を年間2回以上実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間に、学部全体で対面式を行った。第1学年では、理科の合同授業を行い、協力して葉脈しおりを完成させた。2学期以降には、さらに合同授業や収穫した野菜で調理活動を行う予定である。 			
	<ul style="list-style-type: none"> ・聴覚支援学校中学部の生徒と行事交流を通して、ともに協力して活動する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文化祭や地域の清掃奉仕、給食交流等、さまざまな活動を計画し、学期に1回以上ともに活動する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2学期以降に、給食交流や清掃奉仕等を実施する予定である。 			
高等部 普通科	<ul style="list-style-type: none"> ・聴覚支援学校高等部の生徒とともに、城南高校文化祭の展示の部に参加し、聴覚障がいと視覚障がいに対する理解啓発を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・両校の生徒達が協力して展示物の運搬や配置など会場準備を行う。当日は、来場者に資料を配付したり説明をしたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休みの登校日に、展示の準備を行う予定である。 			

生徒活動課	<p>・学校行事等について、聴覚支援学校との交流ができるよう計画を立て、ともに学ぶ教育の機会を設ける。</p>	<p>・第41回中国四国地区盲学校弁論大会校内選考会、平成27年度文化芸術による子どもの育成事業、文化祭、などの学校行事等において、聴覚支援学校と年3回以上の交流が実施できるよう計画する。</p>	<p>・第41回中国四国地区盲学校弁論大会校内選考会は5月12日に実施し、聴覚支援学校の生徒を招待した。平成27年度文化芸術による子どもの育成事業については6月11日にクラシックバレエ公演を、聴覚支援学校の幼児・児童生徒とともに鑑賞できた。文化祭についても計画中である。</p>		
寄宿舍	<p>・視覚・聴覚の合同避難訓練を行い、緊急時に安全に避難できる体制を整える。</p>	<p>・両校合同で地震・津波、火災、不審者を想定した避難訓練を、年間3回以上実施する。 ・避難訓練後に両校児童生徒、教職員からアンケートを取って課題点を探り、改善を図る。</p>	<p>・1学期は5月に、夜中の地震・津波を想定した合同避難訓練を行った。訓練後のアンケートでは舎生からは安全に避難できたという意見が大半だった。職員からは声かけの大切さを再認識できた、次回は暗い時間帯での訓練が必要などの意見が出た。2学期は火災を想定した避難訓練を予定している。 ・寄宿舍非常階段の段差や、階段下の水たまりは、避難時に危険を伴う恐れがあるため、舎生の意見を取り入れながら今後改善を図る予定である。</p>		

重点課題	②未来につながる 幼稚部から小学部、中学部、高等部、高等部専攻科における、専門性の高い一貫した保育・教育により、社会に主体的に参加し、自立をめざす人を育てる。					
重点目標	① 視覚障がい教育に関する研修と公開授業、OJTによる授業力の向上等により、教職員の専門性を向上します。					
			中間評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
			評価指標による達成度及び活動計画の実施状況	総合評価(評定)	学校関係者の意見	
研究・情報課	・視覚障がい教育の専門性向上のため、「視覚障がい教育の基礎基本を踏まえた授業実践」をテーマとするグループ研修を年間9回実施する。	・点字(基礎)・点字(活用)・歩行・教材研究・ICTのうち、所属するグループの研修内容に関する専門性が向上したかどうかのアンケートを実施し、80%の教員から「向上した」との回答を得る。	・所属グループの希望調査を行い、全教員が5グループのいずれかに所属し、各グループ毎に年間9回の研修計画を作成した。1学期末現在、9回の計画のうち計画通りに3回が実施できた。			
教務課	・点字使用生徒に対し、チームティーチングによる授業が行えるよう時間割編成および時間割変更を行う。	・2学期末のアンケートにて「年度当初より、点字使用生徒に対する授業力が向上した」と70%以上の教職員が回答する。	・4月の時間割編成作業より、教科担当者と盲学校専門教諭とのペアリングを行ってきた。日々の時間割変更においても、できうだけ授業に支障が出ないよう変更作業には取り組んでいる。これらを受けて、2学期末の授業担当者アンケートにて『点字使用生徒に対する授業力向上』を問う予定である。			

重点課題	②未来につながる 幼稚部から小学部, 中学部, 高等部, 高等部専攻科における, 専門性の高い一貫した保育・教育により, 社会に主体的に参加し, 自立をめざす人を育てる。				
重点目標	②点字教材と触察教材の充実を図ることにより, 一人一人の見え方に対応した教育を推進します。				
具体的な活動計画	評価指標	中間評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
		評価指標による達成度及び活動計画の実施状況	総合評価(評定)	学校関係者の意見	
中学部	・生徒の実態や学習内容に応じた点字教材や立体, 半立体教材を作成し, 授業に活かす。 ・「点字等教材作成」担当教員と連携し, 年間10個教材を作成する。 ・教材を使用した後, 「自作教材シート」にまとめる。	・社会科では, 立体地図, 模型等を, 10個作成し, うち4つは教材作成担当教員と連携して作成し, 授業で活用した。保健体育でもからだのしくみについて自作模型を作成した。点字教材は, 各教科において, 教材作成担当教員と連携し, 日々作成している。現在, 教材シートにまとめているところである。			

重点課題	②未来につながる 幼稚部から小学部, 中学部, 高等部, 高等部専攻科における, 専門性の高い一貫した保育・教育により, 社会に主体的に参加し, 自立をめざす人を育てる。				
重点目標	③支援機器等教材の活用に関する研究をととして指導方法の充実を図ります。				
具体的な活動計画	評価指標	中間評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
		評価指標による達成度及び活動計画の実施状況	総合評価(評定)	学校関係者の意見	
研究・情報課	・ICT機器の有効活用による指導の充実を目指し, ICTを活用した公開・研究授業を延べ5回以上計画・実施する。	・ICTを活用した公開・研究授業を80%の教員が参観し, コメントシートを通して授業者との意見交換を行う。	・4回の研究授業を実施し, 97%の教員が研究協議に参加し, 授業者との意見交換を行った。		

重点課題	②未来につながる 幼稚部から小学部、中学部、高等部、高等部専攻科における、専門性の高い一貫した保育・教育により、社会に主体的に参加し、自立をめざす人を育てる。				
重点目標	⑥幼児・児童生徒の発達段階をふまえたキャリア教育の推進を図ります。				
			中間評価	学校関係者評価	
	具体的な活動計画	評価指標	評価指標による達成度 及び活動計画の実施状況	総合評価 (評定)	学校関係者の意見
人権・キャリア教育課	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚部から高等部におけるキャリア教育年間計画を教職員の共通理解のもとに推進し、勤労観や職業観を育み、本人や保護者の希望がかなえられる進路実現をめざす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚部・小学部は、勤労観の育成のためチャレンジウィーク実施率を90%以上に設定する。また、今年度から個人ファイルを作成し、内容について学部会において情報の共有ができるようにする。 ・中学部は、総合的な学習を活用し、身の回りの施設や環境について各自にあった方法で調べ、学期に1度は、学習成果を発表する。 ・普通科は、一人1回以上の事業所見学か就業体験を実施する。 ・専攻科は、1年生の校内実習見学、2年生の治療院見学、3年生の治療院実習と職業観を育成する。卒業後の業界参加がスムーズに移行できるように、見学先や体験先の開拓を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々にファイルを作成し実施の案内をしたところである。 ・1学期の学習成果については発表を終えて、意見交換をした。 ・1名については1学期に実施し、他の生徒についても計画をしている。 ・2年生の県内事業所見学を終え、夏季休業中に関西方面の治療院見学を予定している。 		
高等部職業学科	<ul style="list-style-type: none"> ・治療院や病院でのキャリア実習を計画・実践し、職業人として必要なスキルを身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職業学科「個別のキャリア教育学習プログラム」を活用し、1学期に職業人として必要なスキルについて教員が評価する。2学期の実習後に再評価し、すべての生徒の評価が上昇する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期の評価が終了し、教員間の共通理解ができた。生徒個々の評価が低い項目について、特に重点的に指導を行う予定。 		

重点課題	③地域とつながる 特別支援教育センターとして、視覚障がい等のある幼児・児童生徒に対する専門的な支援を全県展開するとともに、障がいのある方の交流拠点として、生涯をとおした活動を支援する。また、防災避難施設として地域の方々の安全を守る。
重点目標	④特別支援教育センターとしての機能を十分に発揮するため、乳幼児教育相談や通級指導教室を設置する等、視覚障がい等のある乳幼児から児童生徒に対する専門的な支援を全県展開します。

具体的な活動計画	評価指標	中間評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
		評価指標による達成度及び活動計画の実施状況	総合評価(評定)	学校関係者の意見	
サポート課	・乳幼児教育相談や通級指導教室のニーズを掘り起こすため、教育、医療、保健福祉、療育等の各機関を通じて広報を行う。	・県内全域の30以上の関係機関に、利用者等へのチラシの配布を依頼する。	・6月末現在で24の関係機関や研修会等参加者へのチラシの配布を行った。 ・夏期休業中に、15の関係機関や研修会参加者にチラシを配布する予定である。		
	・地域の学校において行われる、視覚障がい教育や視覚障がいについての啓発活動を支援する。	・地域の教員に向けての視覚障がい教育や啓発活動についての研修を4回以上行う。	・6月4日に県教委主催の弱視学級担任者研修会を本校にて実施した。 ・夏期休業中に、本校主催で地域の教員向けの研修会を3回行う予定である。その他、小中学校教員向けの研修を2回依頼されている。 ・2月6日に講師を招いて地域研修会を行う予定である。		

重点課題	③地域とつながる 特別支援教育センターとして、視覚障がい等のある幼児・児童生徒に対する専門的な支援を全県展開するとともに、障がいのある方の交流拠点として、生涯をとおした活動を支援する。また、防災避難施設として地域の方々の安全を守る。				
重点目標	⑨防災避難施設として、地域の人々と連携した防災訓練等を行います。				
		中間評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
具体的な活動計画	評価指標	評価指標による達成度及び活動計画の実施状況	総合評価(評定)	学校関係者の意見	
渉外・安全課	・地域の防災避難施設としての役割を果たすため、地域住民や聴覚支援学校と連携した防災訓練を行う。	・町内会長や、自主防災組織など地域住民と密に連携を図り、地域住民や各校の幼児・児童生徒の防災訓練参加者が40名以上となる。	・聴覚支援学校の担当職員と10回程度、地域の担当者とは、4回の話し合いを行い、防災訓練の計画を立てた。当日の参加者は、130名近くになり、大変多くの方が参加したが、起震車体験、消火訓練、三角巾の使い方の講習、津波避難訓練、炊き出し訓練を各班や、また合同で行うなど、全員熱心に、取り組むことができた。		
	・聴覚支援学校と連携を図り、防災訓練(火災、地震・津波、不審者対応)を行う。	・聴覚支援学校と連絡を密にして計画を立て、年3回以上合同で防災訓練を行う。訓練を通して、緊急時の避難に際してのより細かな課題点を探る。	・1学期は火災避難訓練を行った。聴覚支援学校と連携を取り、お互いに助け合いながら、避難することができた。 ・今のところの課題点として、緊急用の滑り台が、雨天時はとても滑りやすく、使用すると危険なことがわかった。また、通報連絡班等、それぞれの役割が、実際には機能しにくい面があり、臨機応変に対応できるように見直す必要がある。		

重点課題	③地域とつながる 特別支援教育センターとして、視覚障がい等のある幼児・児童生徒に対する専門的な支援を全県展開するとともに、障がいのある方の交流拠点として、生涯をおとした活動を支援する。また、防災避難施設として地域の方々の安全を守る。				
重点目標	⑩生涯学習の拠点として、視覚障がいのある人の活動を支援します。				
		中間評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
具体的な活動計画	評価指標	評価指標による達成度及び活動計画の実施状況	総合評価(評定)	学校関係者の意見	
高等部普通科	・美術館や博物館の活用をとおして、視覚障がいに配慮した事柄を提案し、自己の充実や生活の向上を図る。	・美術館や博物館での見学やワークショップを年に3回以上実施する。 ・見学やワークショップの事前・事後に美術館や博物館のスタッフと話し合い、連携を図る。	・「美術1」の授業で、美術館所蔵の版画作品の鑑賞を行った。事前に美術館スタッフに版画用具の紹介を依頼し、作品鑑賞とともに用具の実物も見る事ができた。生徒からは、とても良い体験ができたとの感想があった。		

重点課題	④心がつながる 思いやりと支え合いの心に満ちた人間性豊かな社会を築くため、学校と保護者、地域、関係機関・団体等が連携し、視覚障がいに関する理解の推進に努める。					
重点目標	⑤幼児・児童生徒一人一人の人権を最大限に尊重するとともに、全教職員がいじめのない学校づくりに努めます。					
	具体的な活動計画	評価指標	中間評価 評価指標による達成度 及び活動計画の実施状況		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
生徒活動課	<ul style="list-style-type: none"> いじめのない学校づくりに向け、外部から講師を招聘し、全教職員を対象としていじめ防止の研修を実施する。 全教職員でいじめ防止に取り組むとともに、いじめの事案の発生については、早期発見と早期対応を行う。 いじめや犯罪に巻き込まれないために、在学中のみならず、卒業後も役に立つ知識が身につくよう、専門家を招き、各安全教室を3回開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> 実施後のアンケートにおいて、教職員の「いじめ防止の意識が向上した」という回答を70%以上得る。 いじめの事案の発生をとらえたときには、できるだけ早く事態を把握するとともに、生徒指導委員会等を通して解決に努める。 外部講師を招いて、携帯スマホ安全教室、交通安全教室、薬物乱用防止教室を開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> 実施後のアンケートにおいて、教職員の「いじめ防止の意識が向上した」という回答を99%得ることができた。 今年度7月16日現在のところ、いじめの事案は発生していないが、引き続き、いじめのない学校づくりに努めたい。 6月12日に交通安全教室、7月9日に携帯スマホ安全教室を開催した。薬物乱用防止教室については、3学期に実施予定である。 			
人権・キャリア教育課	<ul style="list-style-type: none"> 人権教育年間計画が効果的に実施ができるように、指導案作成の研修を行い、ホームルーム活動や教科学習の充実をはかり、心豊かな人間性を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間計画の実施について、評価欄の記入を学期毎に促し、年度末には90%以上の実施をする。 職員を対象とした指導案作成の研修を行い80%以上の満足度を得る。 	<ul style="list-style-type: none"> 1学期に実施済みのものについては評価の記入を促すとともに、未実施のものについては再計画を依頼する。 6月23日に研修を実施し、90%の満足度を得ることができた。 			

重点課題	④心がつながる 思いやりと支え合いの心に満ちた人間性豊かな社会を築くため、学校と保護者、地域、関係機関・団体等が連携し、視覚障がいに関する理解の推進に努める。					
重点目標	①奉仕活動や環境・エネルギー活動、啓発活動をとおして、地域とのつながりを深めるとともに、視覚障がいに対する理解の推進を図ります。					
具体的な活動計画	評価指標	中間評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
		評価指標による達成度及び活動計画の実施状況	総合評価(評定)	学校関係者の意見		
小学部	<ul style="list-style-type: none"> 地域の商店に「点字ブロックの日」の啓発チラシ付きのティッシュを置いてもらえるよう依頼に行く。 	<ul style="list-style-type: none"> 3店舗以上の地域の商店に依頼する。 チラシ入りのティッシュを100個以上作る。 	<ul style="list-style-type: none"> 2学期に啓発チラシ付きのティッシュと啓発チラシを作製する計画を立てた。 点字ブロックの日にちなみ、11月と3月の18日に啓発チラシ付きのティッシュを置いてもらえるよう、学校近隣の商店に依頼する計画を立てた。 			
高等部 普通科	<ul style="list-style-type: none"> 聴覚支援学校生徒と合同で、近隣や二軒屋駅周辺の清掃活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間とHRの時間に2回以上実施する。 清掃活動の中で出会う地域の人々に積極的にあいさつをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 1回目を両校の高等部生徒17名が2班に分かれ、実施した。 今回の清掃活動中では、地域の人にほとんど出会わなかった。 			
	<ul style="list-style-type: none"> 「点字ブロックの日」前後に、城南高校生や本校と聴覚支援学校の保護者へちらし付きのティッシュを配り、点字ブロックへの理解啓発を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 登下校の時間帯に5回以上実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 3学期に実施予定。 			
高等部 職業学科	<ul style="list-style-type: none"> 学校周辺の清掃活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 放課後等を活用して、年間3回以上実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 2学期以降に実施予定。 			
	<ul style="list-style-type: none"> 本校生徒が、臨床体験を通して地域住民とのふれあいの中で相互理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> アンケートで75%以上の人が視覚支援学校の理解が深まったと回答する。 	<ul style="list-style-type: none"> 2学期に実施予定。 			